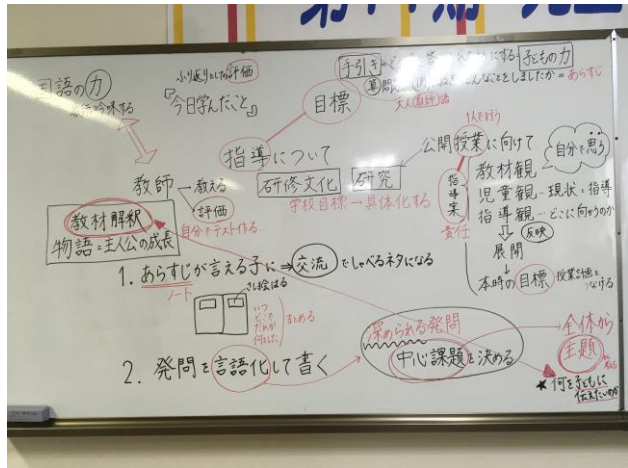


第11回・先生のための学校を振り返って

「先生のための学校」 スタッフ 荒井賢一

第11回期の先生のための学校も、2月10日に、修了式を迎えました。今回は、約30名の方が受講されました。



まずは、右の板書を見てください。これは、久保先生のお話に合わせて、岡

本美穂先生が、板書されたものです。

久保先生の話の要点をとらえて、的確にまとめられる岡本先生にびっくりしました。さすが『板書・ノート指導の基本とアイデア』（小学館）を書かれているだけのことはありません。

岡本先生は、なんと11回の先生のための学校、全てに参加されています。最初は受講生でしたが、今はスタッフ件講師及び、学年別分科会六年の担任もされています。

このように、若い先生が、先生のための学校とともに、成長されています。

このような継続的な学びをできることが、先生のための学校の強みなのです。

世の中には、いろんな講座が開催されています。どの講座も学びが多く、参加してやる気が出てきます。

でも、数日たつと、その熱も冷めてきて、いつもの自分の実践に戻ってしまいます。

学ぶことは、一過性ではダメなのです。やはり、継続して学ぶことで、その人自身になっていくのではないのでしょうか。

先生のための学校で、久保先生がこだわっていることは、同じ会場で、同じ時刻に、毎月開催されることです。

今回も、エルおおさかという会場で、午後1時から、9月から六回連続で、先生のための学校が開かれました。

しかも、受講生は一回目に六回分の受講料一万円を払います。さらに、学力研会員限定です。学力研の会員でなければ、会費の四千元を追加で払って受講するのです。受講生に力がかからない訳がないのです。

さて、今年の3月から、岡本先生の企画で若い先生のための学校も開校されます。これも、エルおおさかで、四ヶ月連続で開かれます。今回は、15〜30分の講座が、毎回六講座、行われます。（残念ながら、久保先生は講師ではありません。）

今回は、私（荒井）も講師として、毎回どこかの講座を担当させていただきます。20名限定で、七千円（四回分）です。ぜひ、ご参加ください。